

永耕会だより

第8号

社会福祉法人 永耕会

小田原市曾我岸 148 Tel.0465-42-2268

HP: <http://eikou-kai.or.jp/>

発行者 理事長 長谷川隆三

編集 永耕会広報委員会

新年のご挨拶

今号のテーマは
「新しい一歩をふみだす年に」です

- 永耕園（障害者支援施設）
- 光海学園（福祉型障害児入所施設）
- デイセンター永耕（障害者日中活動支援）
- ういず（相談支援センター）
- 永耕会ホーム（共同生活援助）
第一ホーム（おちゃの実・なかまたち）
第二ホーム 青空 あすなろ 上千代

永耕会常務理事 河辺 邦夫

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より、関係各位の方々からの暖かいご支援と、ご協力を賜り、無事新年を迎えることができたことを心より御礼申し上げます。

去年は、一昨年に続き新型コロナウイルス感染防止への対応が求められた一年でした。基本的な感染対策を徹底させながら、不自由な生活の中にあっても、感染の落ち着いた時期には帰宅や外出、面会などを取り組み、できる限り「変わらない日常生活」を維持する事を努力してきました。

感染の終息はまだ見通せませんが、利用者様の健康と命を守り、安全安心な事業の継続を私たちの使命として、永耕会職員一同努力してまいります。

昭和29年に財団法人積善会光海学園が開設され、今年で68年目を迎えます。

「貧しさや戦災など、さまざまな理由で大切な家族と住むことができなくなった障がいを持つ児童を保護する家として、光海学園は昭和29年開設されました、これが私たち永耕会の原点です。」
光海学園設立趣意書の文章と志は、そのまま「永耕会本方針」として引き継がれています。
今年4月より『障害者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据えた、居住支援のための機能を持つ場所や体制』を掲げて、県西圏域（足柄上地区・下地区）の地域生活支援拠点事業が本格スタートします。

永耕会は、中核事業者として緊急時に受け入れを行う永耕園を軸に、地域での役割を担って行くことになります。光海学園を設立した先達の志を受継ぎながら、障がい者が地域で暮らすための支えとなる「拠点」としての第一歩を踏み出して行きたいと思います。



寒さも忘れる「お正月レクリエーション」の数々

永耕園

「当事者目線」の支援を目指して -拘束ゼロを目指します-

私たちの仲間である県立津久井やまゆり園で、凄惨な事件が発生し今年で 7 年目を迎えます。神奈川県は事件を機に、入所施設における障がい者への支援の根本的なあり方の再検討を目指して「当事者目線の障がい福祉に係わる将来展望検討委員会」を発足させました。また、津久井やまゆり園新園舎開所に合わせて黒岩知事は 11 月 16 日「当事者目線の障がい福祉実現宣言」を行いました。

永耕園も平成 26 年、平成 27 年と相次いでグループホームを地域に開設し、長く入所生活を送ってきた利用者 22 名の地域生活移行を実現し、入所 100 名定員を 75 名定員に削減しました。一人ひとりの希望に沿った暮らしの実現に向けて努力を積み重ねてきましたが、「当事者目線」という基準の中では、まだまだ課題を残しています。

その大きな課題として現在も 3 名の入所者様の身体拘束を残念ながら現在も継続している事があげられます。何れも短時間、軽微なもので、ご本人、ご家族の承諾の下に起案書を作成し、定期的な見直しを行っています。身体拘束は虐待にあたり、「当事者目線・ご本人の気持ち」からもあってはならないものです。

「しかたない」「軽微で短時間であるし」という支援者側の現状を合理化する意識に流されず、「拘束ゼロを目指す支援」を今年一年の大きな目標として掲げ取り組んで行きたいと思ひます。



光海学園

自分らしい発言と相手への想いで よい関係がつながるように

自分の気持ちや思いを相手に伝えること、そしてお互いが話し合い、意見を交わすこと…。昨年からはじめました「子ども会議」や「県西地区権利擁護ネットワーク(KW ネット)」といった人権に対する取り組みを行っています。コロナ禍において未だ収束の見通しが立たない情勢ではありますが、ご家族や各関係機関、そして地域とのつながりを大切にすることで、児童 1 人ひとりが将来に向けて自分を見つめ、視野を広げることができるような「地域交流会(GH、就労、施設などの情報交流会)」がおこなえるよう、これからも様々な意思決定支援から共に成長し、子どもたちの最善の利益に向けて取り組んでいきたいと思ひます。



▲5月子ども会議
(女子棟)

▲7月子ども会議
(男子棟)

皆様と一緒に成長する事業所を目指して

デイセンター永耕

デイセンター永耕は、コロナ禍ではありますが地域の皆さまとの繋がりを大切にしたいと様々な活動に協力しています。小田原市 SDGs体験事業の「おだちん」にはパン工房ジョイが登録しております。「おだちん」は店舗と利用者がリサイクルを通じて繋がるポイント制の事業ですので、ぜひご利用下さい。

小田原市社会福祉協議会よりお誘いを受け、「おだわら赤い羽根食堂」にも協力しております。「おだわら赤い羽根食堂」は飲食店が寄付つき商品を販売して、売り上げの一部を赤い羽根共同募金へ寄付をする事業です。

また、こゆるぎ幼稚園さんとのおもいほり会、小学校の町探検受け入れなど近隣の学校などとの繋がりも強めています。これからもデイセンター永耕は地域の皆さまと共に成長する事業所を目指してまいります。



利用者さんへのよりよい 余暇支援を提供していきます

永耕会ホーム

今年度もホームでは新型コロナウイルスの感染対策を徹底しながらの生活を送ることになりました。毎月行っている「利用者会議」の場で「いかに感染のリスクをおさえられるか」を議題に利用者の皆さんと共に取り組んできました。感染状況を見ながら「少しでも息抜きになれば」と試行錯誤しながらの余暇の提供となりました。

利用者の皆さんにとっては100パーセント満足できるものではなかったと思います。我々支援者側としては「最低限のレクしか提供できず申し訳ない」という気持ちでしたが、その後しばらくは外出レクの話で持ち切りだったので、利用者の皆さんに喜んでいただけたようで、嬉しく思いました。

色々なことを我慢しながらの生活でストレスもたまっていると思われそうですが、そんなことを感じさせずに、毎日就労や社会参加をしている利用者さんを見てると頭が下がる思いです。今後もしばらくは今のような状況が続くと思われそうですが、少しでもホームの生活が充実したものになるよう支援していきたいと思っています。



**相談支援センター
ういづ**

「あたりまえの暮らし、何気ない日常」を支えるお手伝いをこれからも

本年もういずは相談支援事業(計画相談支援・1市3町委託相談支援事業「クローバー」)を通して、障がい当事者、ご家族が住み慣れた地域で安心して暮らしていくためのお手伝いをしていきます。

コロナ禍が始まって以降、感染へのリスク、先の見えない不安が募り、安心して外出が出来ない、福祉サービスの利用が難しい、心身ともに日々の生活に苦しさを感じているというお話を聞くことが日常的になってしまいました。そんな中、計画相談支援では、状況をみながら、可能な限りご本人やご家族と直接会ってお話を伺う機会を設けることに努めています。

また、クローバーでは昨年秋より、これまで中止していた視覚障がい、精神・発達障がいをお持ちの皆さんの定期的な集いの場を再開しました。久しぶりに顔を合わせ、お話に興じる皆さんの表情に、「何気ない日常」の大切さを強く感じる事が出来ました。

これからもういずは、ご本人の日々の暮らしを支え、望む暮らしの実現に向けたお手伝いを続けていきます。



利用者さんからの素敵な
年賀状、今年も届きました。

作業グループ
からお知らせ



毎週水曜日 11 時～15 時オープンしています
箱根宮城にある今人気の「BOX BURGER」のハンバーガーのパンはジョイのパンを使用していただいています！是非、一度ご賞味ください！



永耕園はたおり 糸を染め、手で織り、製品をつくっています。

イベントが中止され、素敵な機織り作品を手にとっていただく機会が減っています。個人、個別購入にも対応しています。お気軽にお問い合わせください！

コロナ禍で色々なお祭りや

 編集後記

8月をピークとした新型コロナウイルス感染第5波は、幸い永耕会事業所内での感染はありませんでしたが、職員、利用者の極身近で次々と感染者が確認され、厳しい対応を求められました。その後の10月以降は小田原保健福祉事務所管内でも感染者ゼロが続き、それまで止めていた外出や外食、帰宅、面会などを限定しながらも再開。束の間の穏やかな一時を過ごすことが出来ました。

しかし、海外でオミクロン株と呼ばれるコロナウイルスの新種株が確認され、年末より再び国内の感染は増加に転じてきています。

終息はまだまだ先でしょうか・・・基本的な感染対策を再度徹底させながら、利用者さんの望む暮らし、日常を少しでも継続できるように努力を続けて行きたいと思います。(河辺)

メール : info@eikou-kai.or.jp 電話 : 0465-42-2268